

議事録

審議会等名	令和5年度つくばみらい市文化財保護審議会
開催日	令和6年3月27日（水曜日）
開催場所	コミュニティスペースみらい ギャラリー
出席者	町田教育長 出席委員 大森、中野目、松澤、渡辺 事務局 大山課長、浅野室長、安楽主査、高橋主事、原信田、横川
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度文化財保護事業の概要について</li> <li>・令和6年度文化財保護事業の予定について</li> <li>・現地視察</li> </ul>
議事概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会 午後2時00分</li> <li>・教育長あいさつ</li> <li>・委員長あいさつ</li> <li>・議事</li> </ul> <p>（1）令和5年度文化財保護事業について 事務局より説明を行った。</p> <p>○質疑等 委員： 少子高齢化のため、つくばみらい市も文化財を後世に伝えることが難しい状況にあるのではないかと印象がある。国指定の無形民俗文化財に指定されている綱火も苦勞があるのではないかとと思うが如何か。綱火を継続していくための工夫について、お訊ねしたい。</p> <p>事務局： 綱火の小張松下流に関しては、地元の小学校の児童にお囃子・太鼓・綱火のからくりなどを教えるほか、奉納する神社まで花火を出しながら向う繰込みを児童と一緒にっており、参加を希望する方々の受入れ態勢を整えていただいている状況である。</p> <p>高岡流の場合、地元の長男となる方が継承していたが、次男・三男の方の継承を認めるようになり、間口を広げるようにしたと聞いている。</p> <p>しかし、後継者不足に関しては、少子高齢化もあり、実際に綱火を担っている方々の減少というのも聞いている。今後どのように継承していくかは、事務局でも考えており、働きかけをしている。</p>

委員：

地区だけでは維持・継承が非常に難しい。かすみがうら市のほうでも霞ヶ浦寄り・筑波山寄りへ行くと限界集落と呼ばれているところがある。もう後継者がいないため、色々な行事がコロナ禍もあったことから実施できず、隣家同士とも挨拶もできず、地域のコミュニケーションがなかなかできなくなっている集落が存在する。そのようになると、文化財の保存や継承は、本当に困難となってしまう。

いまの話聞き、小学校を通じて、子どもたちに地域のことを教えていくことは素晴らしいことであると感じた。その子どもたちが、将来は自分の地区に、自分の地区でなくとも、戻ってきてくれるようなかたちができると思う。

事務局：

補足すると、技術的な承継については、綱火は1年に1度しか公開する機会がないため、難しくなっている。数十年前はアメリカ公演のほか、日本各地で呼ばれて綱火を披露した。しかし、いまはもう年1回の地元の祭礼だけである。そのため、場所の提供などを通じて、市としても何とかお手伝いしたいと思っている。伊奈町時代には、商工会主催で伊奈の祭りがあり、お披露目する機会もあった。技術的にもいまの年代の人も1年に1回しかできないので忘れてしまうという問題がある。

委員：

そうすると補助金も足りないのではないか。

事務局：

市の補助金審議会等でも少ないのではないかという御意見はいただいている。

委員：

具体的に何が少い少ないというのは検討してみないとわからないと思うが、年に5回集まってもこれでは半端なお金である。

委員：

小張はみらい平駅に近く、新しい住民の方も増えてきていると思う。高岡は昔ながらであり、愛宕神社もそのままという印象である。最近行ってみても、小張のほうが少しにぎやかな感じがする。

事務局：

筑波大学の学生さんも小張松下流の保存会で活動されている。

委員：

昔は茨城県を含め、各地で祭りを行っていた。いま年に1回の祭りでしかやらないのでは、やはり盛り上がりには欠ける。昔は神宮外苑まで行ったものです。私も見たが凄かった。そこに行くとなったら、全然違うでしょう。団員も。

委員：

市のなかでまちづくりの一環として、行うことができれば、一番よい。かすみがうら市でも考えているが、話が進んでいくと最終的には予算がないといわれてしまう。どの団体から声やアイデアを出してもそうなる。担当者もがっかりして、意欲をなくしてしまう。人は意欲をなくすと落ち込み、新しいアイデアがでてこなくなる。

委員：

補助金の金額は私も委員を20年務めているが変わらない。

年に1回というのは、いまうかがったところによれば、お考えいただく点である。機会を増やすようなことは、継承という意味でも御検討いただきたい。

委員：

機会を増やすということでは、さきほど筑波大学の学生が参加したという話が出た。大学と連携をして、綱火を例えば学園祭でやるというのは如何か。

私も伊奈町史に関わるまで、綱火を知らなかった。情報発信が弱いと思う。特に大学は社会連携ということを求められているため、一つの評価というものに関わってくることから、悪い気はしないのではないかと思う。

委員：

筑波大学には社会連携室がある。

委員：

面白いと思う。地元の保存会も喜ぶのではないか。

委員：

そこはやはり首長次第というところもある。首長と大学とをつなぐことはできる。ただ、首長のお考えを聞いていただき、御検討いただ

	<p>きたい。</p> <p>お話を伺っていると、単に補助金を 20 万円ずつ上げればこれが継承されるというわけではないと思われる。</p> <p>委員：</p> <p>    綱火はビデオで記録しているか。</p> <p>委員：</p> <p>    記録はある。無形民俗文化財に指定された時点で記録されている。</p> <p>委員：</p> <p>    スタイルは違うようであるが、東海地方にも綱火と名乗る伝統芸能がある。あちらは秋葉信仰が強い。例えばそういうところと地域連携をし、イベントを組むということも考えられるかもしれない。</p> <p>委員：</p> <p>    火祭りは全国的にあると聞く。文化庁に言えば、データベース化されているであろうから、わかるはずである。ただ、イベントはコーディネーターがいないとなかなかできない。</p> <p>委員：</p> <p>    配付資料につくばみらい市歴史めぐりの参加者のことが書いているが、年齢構成はどうなっているか。</p> <p>事務局：</p> <p>    年代的には、六十歳代以上の方が多。四十歳代などは稀である。</p> <p>委員：</p> <p>    子どもさんは参加しないのか。</p> <p>事務局：</p> <p>    18 歳以上参加受付ということになっている。</p> <p>    (2) 令和 6 年度文化財保護事業の予定について事務局より説明を行った。</p> <p>○質疑等</p> <p>委員：</p> <p>    ミュージカルはどのような脚本で行うのか。</p>
--	---

事務局：

3カ年で考えており、1・2年目は市内の小中学校を対象としたワークショップを行う。最終年度の3年目は市民の方々を対象とした一般公募を行い、市の歴史的人物等を脚本にしたミュージカルを開催するという計画で進めている。

委員：

歴史専門員に職名として「学芸員」を付けるとよい。

事務局：

承知した。

委員：

学芸員は国内の共通の専門職であり、プロフェッショナルとして認められている職である。会計年度任用職員の職名であるから、柔軟に対応できると思われる。

令和6年度文化財保護事業は、3月の議会で通っているのか。

事務局：

その通りである。

委員：

ミュージカルはどこで行うのか。

事務局：

会場は「きらくやま」である。

委員：

地元で行うということか。素晴らしい企画であるがそのあとはどうなるのか。3年で終わってしまうのか。

事務局：

ミュージカルは他市でも行っているが、3年一括りで継続した事業として行っているようである。

委員：

3年で終わってしまうのはもったいないと思われた。経験した子どもや大人が次のことにも関わらなければ、イベントはその場限りで終

わってしまう。いくら素晴らしいイベントを行ってもそのあとに続かない。「よかった」で終わってしまう。つくばみらい市の今後につながるようなものが何かあればよい。3年間はお試し期間みたいなもので、そのあと何らかのかたちで継続して行っていけるのかと思い、説明を聞いていた。3年だけで文化庁の補助金があって終わりというのは少しもったいないという印象を受けた。ミュージカル自体は、もちろん行ったほうがいい。

委員：

いまは全てこのように行なわれている。助走期間だけ補助金を付け、あとはもう自立的に行なわせるという予算付けである。

委員：

自立的なものができるかである。相当、市のほうが援助しないとできない。そのようなものが裏に付いているのかと思った。

委員：

事業としては3年ということか。

委員：

長いようで短い。

事務局：

ミュージカルの脚本のことを指摘されたが、それは文化財の立場として時代考証や事実の問題と関係するのかという質問であったのか。

委員：

そのあたりがどうなのか。ミュージカルであるから、歴史に忠実であるというのは。

事務局：

話合いのなかでは、題材としてはまず第一は間宮林蔵かという話がでている。

委員：

いま全国で学習漫画を作る動きがあり、去年申上げたと思うが、2～300万円補助される。新潟県燕市では鈴木文台で作った。青森県弘前市では陸羯南で作った。間宮林蔵は、すでに学習漫画はでているとはいえ、もう少し史実に忠実な作品を作ることもできる。いまはこういう

	<p>ものがある。専門の漫画家への依頼料も負担してくれる。</p> <p>ほかになれば、見学の方に移らせていただければと思います。</p> <p>会議後、東栗山の千手院へ向かい、修復を終えた木造千手千眼観自在菩薩立像等を視察した。</p> <p>・閉会 午後4時</p>
<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人 なし</p>